



## わがまちのしゃかいきょういく

## 高齢者対策としての 人材銀行

## 川俣町教育委員会

## 二、町の教育基本方針

明るい郷土の発展をめざし、町民が教育と文化の香り豊かな生活を送れる

緑岩で部分的に新期花崗閃綠岩が混在し、土性は壞土、砂壞土である。国道百十四号線（福島～浪江）主要地方道原町～川俣線は県都と太平洋沿岸を結び、その他県道、町道ともに交通の結節点を形成している。古来、織物（絹、化合織）の産地として発展してきた。

## 一、町の位置、地勢

川俣町は阿武隈山地西斜面の丘陵地帯にあり、伊達郡南部に位して、東は相馬郡飯館村、双葉郡浪江町、南は安達郡東和町、西は伊達郡飯野町、北は月館町に接し、福島市の東南二十四キロメートル、県都周辺の主要な地区拠点として存立している。

表1 川俣町の高齢者人口（国調）

年	総人口 A 人	65歳以上人口 B 人	高齢者人口割合 B/A %
昭30	26,949	1,625	6.03
〃35	25,983	1,817	6.99
〃40	24,741	1,992	8.05
〃45	22,747	2,108	9.27
〃50	21,644	2,288	10.57

注(昭30. 3. 1 ..... 1町7か村合併)

### 三、社会教育事業としての高齢者人材銀行

以上の基本方針を踏まえた社会教育事業の計画的展開が求められている。

- ・このため、町民の理解、協力、関係機関、団体との緊密な連携により
- ・知育、德育、体育の調和のとれた学校教育
- ・主体的な自己啓発による豊かな心

おりであり、総人口に占める高齢者人口は増加の一途にある。高齢者に対する福祉諸制度はかなりその充実をみるに至っているが、物的な対処のみをもつてこと足りると解することはできない。いわゆる生がい教育（学習）に自己を没入させ、人間としての生に対する目ざめと、学習に求める人間本来の生きがいを追求する手段として、高齢者人材銀行を発足させたものである。

次にその要綱を紹介してみる。

1、  
趣

社会経済の著しい変動と相まつて、人口構造の急激な高齢化は避けることのできない問題として最重要視しなければならない。(中略)高齢者は、永年つちかってきた豊かな知識、技能を教多くもつている。これらの知識技能を後世に託する先輩として、また、伝承文化、情報の所持者として登録し、社会教育の面から「住みよい郷土づくり」を推進する。

人林銀行登録要綱（抜下さい）

2、登録する伝承文化・技術等  
郷土芸能・園芸・歌・郷土の料理  
・健康保持方法・郷土の昔話・昔  
の生活用具及び日常作業用具の製  
作技術等・その他学識及び技術的  
なこと。